

室蘭民報

The Muromin Press



なんと、
驚異の
三万発！

三

万

発

室蘭

満天

大

日本
最大級

※

2025年9月6日(土)
10:00 - 23:00

室蘭市だんパラ特設会場
(室蘭市香川町224-1)

そんな チャレンジを 今ここから。

室蘭満天

花火

が、2025年9月6日に初開催される。室蘭市のどんぱら公園を会場に、北海道内で最大級となる約3万発の花火が打ち上げられる。一夜に音楽フェスティバルなども一体となった新しい風物詩として、市の内外から大きな期待が寄せられている。

——室蘭満天花火の開催に至ったきっかけを教えてください。

上村 2025年に室蘭日报社さんが創刊80周年を迎えるということで、野田社長と「皆さんの記憶に残るようなことをやってみよう」という雑談をしたのがすべての始まりです。室蘭日报社さんは「むららん港まつり」のメイン行事となる花火大会を長年開催していたので、それをさらにグレードアップできたらいいなと考えたんです。

野田 どうせやるなら、全国一の花火大会として室蘭の名をとろかせたいといった気持ちがありました。北海道では他のまちでも有名な花火大会が開催されていますが、負けないくらいに凄みのある体験をお届けしたいと思ったので。

やはり花火ならではの、美しい光と迫力に満ちた音の響演。あの風景はいつまでも記憶に残るものですし、あらためて室蘭のまちで思い出に刻まれるような特別な時間を過ごしていただきたいかったです。

青山 新たな産業創出の動きなど、いろいろと室蘭にチャンスが来ている中で、このような催しが行われることを聞いて、私自身とても楽しみに気持ちになりました。今後のまちづくりを考えると、後押しとなる大きなパワーやヒントを得られるのではないかと思います。

——室蘭満天花火の基本コンセプトや特徴はどのようなものですか。

上村 まずお伝えしたいのが、約3万発の花火が上がる。

北海道で

最大級の

花火大会

これは相当インパクトのある数字ではないでしょうか。さらに花火だけではなく、特設ステージでの音楽フェスティバルや地元グルメの出店、遊園地スペースの設置などの準備も進めています。

花火にプラスして、目で複数のエンターテインメントを楽しめるような複合的なイベントは、全国でも珍しい形式だと思います。室蘭には大きな遊園地がなかったり、ライブも遠出しなごあまり見に行けないという現状があります。

地元で全部楽しむことができれば最高ですし、今までにないようなイベントにしたかったんです。

野田 会場となるどんぱら公園は、市民が深い愛着を持っている室蘭屈指の場所です。夏はキャンプ場、冬はスキー場として広く親しまれており、これを契機に秋の花火大会も観賞していただければいいですね。

上村 どんぱら公園はスキー場があるのに珍しい構造で、日光の当たる南側に向けて海を見下ろすようなイメージなんです。夕日の沈んでく風景に包まれながら、音楽を聴く。夜になったら綺麗な星空と一緒に花

火を眺める。周りに何も余計なものがないからこそ、自然の美しさを存分に味わっていただけたらいいと思います。

青山 山の上で開催するから、まわりの灯りもあまり気にならない環境なんですよ。真つ暗な夜空に花火が

ドーンと

上がったら、より一層きれいに見えるんじゃないかな。風の通りもよいので煙も溜まらずに空気が澄んでいて、花火の会場としては最適かもしれませんね。

——室蘭満天花火によって、まちもさらに活気づいていくと思います。最近の室蘭については、半直にどのようにお感じでしょうか。

青山 2022年に市制施行100年の節目を迎え、ブランドマークの作成やサントリーサインの更新に取り組みしました。

その時地元の子供たちも市民の皆さんに参加していただいたのですが、最近特に若い世代の人たちが自らイベントを立ち上げる、実行することが増えてきていると思います。

やっぱり自分たちが動けばいい、いる、できるんだという、そういうムードが少しずつ起こってきている。それのさらに大きなパブリックが、今回の花火大会であると認識しています。

これまでは室蘭のイベントといえば、市や観光協会が主導するという傾向があったのですが、市民の間で草の根的な活動が次々と生まれていてとても心強いです。

野田 私は室蘭生まれ室蘭育ちで、長年ずっとまちの流れを見てきました。その中で感じるのが、どこかに

やっぱり

室蘭市民

つって

諦めの部分があります。

だからそういうマインドを脱するためにも、市や民間企業が積極的に動いて何かをやらなきゃいけない。「ものづくり」のまちとして歩んできた創造心というベースはあるわけですが、多少のリスクを背負ってでも高い壁を越えるためのチャレンジをしてく。

若い方々にはそんなスピリッツが芽生えつつあるのではないかと思いますし、「室蘭満天花火」に触れることで「自分も何かできるんじゃないかな」とモチベーションを得てもらえたら本当に嬉しいです。

上村 自分たちはクリーンの事業をメインに行っているのですが、室蘭は大規模なプラントがあつてニースの多い場所であり、何より発祥の地である大切な故郷です。

今こそゼロカーボンに企業展開をしていますが、原点はやはり変わらず室蘭。このまちで自分たちがチャレンジを積み重ねて、ここまで事業を拡大させてきました。

「室蘭満天花火」も、市民の皆さんにとっての

挑戦の

起爆剤

となるような存在であってほしいと思います。まちの観光や飲食をはじめ、さまざまな業界の方々とともにイベントを創りあげていきたいですし、「ツアー」を組みたい、「メニュー」を出したいなど新しいチャレンジの場としてどんどん活用していただけたら理想的ですね。

——地元の人だからこわかる、室蘭の魅力はありますか。

青山 室蘭出身で帰ってきた人がよくおっしゃるんですけど、自然と人工物がかけ合わさった美しさっていうのは本当にかけがえのないものだと思います。ただ、ずっと地元にいると意外とその良さに気づかなかつたりするんです。15年くらい前から工場夜景がブームになっていますが、地元では当たり前なので特別だと感じなかつたりするんです。

自然美と

人工美

がベストマッチしている情景は、他のエリアにはない室蘭の大切な資産です。

野田 室蘭のソウルフードといえば、室蘭やきとりとカレーラーメン。歴史と伝統がある、全国に誇れる自慢のメニューですよね。

室蘭には老舗の美味しいお店がたくさんあるので、風景を楽しんだ後には食べ歩きもおすすめしたいです。

上村 「室蘭満天花火」もある意味で自然美と人工美という室蘭らしさの象徴かもしれません。打ち上がる花火に海と山の雄大な雰囲気を感じ合せて、ここでしか見られないような景色になればいいなと思います。

——最後に、メッセージをお願いします。

野田 まちづくりは、諦めないことから始まります。「室蘭満天花火」は市民の皆さんがもっと前向きに、気持ちを盛り上げて、いける大きなチャンスだと考えています。

だからこそ持続的に開催しなくてはならないし、いろいろな人の知恵をお借りしながら、室蘭に未来を根づくイベントに育てていきたいです。

上村 水素や洋上風力発電のビジネスなどで、室蘭を訪れる方も増えていきます。その人たちにも「室蘭満天花火」を通して、室蘭というキーワードを刷り込んでいきたいです。

新たな企業誘致にもつながるかもしませんが、やはり企業も元気なまちに進出したいはずですから、市民の皆さんにもやればできる」という姿勢を間近で感じてもらいたい。

そうすれば、室蘭がさらに活気づいていくと思います。

青山 人口減少など暗い話題もあるんですけども、室蘭をベースにチャレンジしようという人が着実に増えている今、「室蘭満天花火」はそのシンボルとして間違いないと離れるはずなんです。これまで経験したことがないものにチャレンジをする。

その生きざまをぜひ市民の皆さんに見てもらいたいですし、その元気を北海道内外の方々にも発信していきたいですね。

——室蘭満天花火の最新情報は、公式ホームページにて随時更新中。
「manten-hanabi.com」



DENZA I株式会社
代表取締役会長
上村 正人
室蘭発祥でクリーン業界をリードするDENZA Iグループの経営に携わりながら、地域貢献活動にも積極的に取り組む。地元で頑張る若者たちに、「自分たちが動けばできる」という信念を受け継いでいってほしいと考えている。

室蘭市長
青山 剛
2002年に室蘭工業大学助手となり、2003年に室蘭市議会議員に、2011年に室蘭市長に就任し、現在4期目。市制施行100年を迎えた室蘭市で、市民とともに新時代のまちづくりに力を入れている。自然大賞が大好き。

株式会社室蘭日报社
代表取締役社長
野田 龍也
「むらみん」の愛称で市民に親しまれる室蘭日报社で、地域密着型の紙面づくりに従事してきた。室蘭のことなら、どんな小さな話題でも伝えていきたいという姿勢は今も変わらない。